

協力してくれた方々

敬称略・五十音順

東中学校PTA 池上健一 上原珠枝
相森中学校 岡本賢司 奥千絵子 オリオン機械
金澤製作所 カワモトミノリ Goolight
小島和也 コバヤシ造形堂 駒津自動車工業
小森豊 酒井勉 榮隆男 坂田壮吾 佐野英紀
サンジュニア 信濃教育会職員一同
島田知世 島田俊哉 清水和美 清水照美
斜面ボランティア一同 食育キッチン野味一
白井寿一 シンエイ 新演コンサート 杉田文弘
関江里子 関谷製作所 竹田光 土田雅子
丹下さゆり 中嶋工務店 ながのアド・ビューロ
仁礼郵便局 馬場澄子 深沢亮子 別所靖隆
細山設備 堀内建材 堀内駿 堀内マサヨ
堀内優梨香 雅塗装 目黒亜矢子 山久プロパン
コンサートイマジン 日本ショパン協会

米山宏貴

山本貴志

令和4年9月9日現在



須坂市立東中学校

<http://www.azuma-school.ed.jp>

〒382-0033 長野県須坂市大字亀倉6-6

TEL 026-245-2342 FAX 026-248-8831

命を吹き込む

— Breathing life —



須坂市立東中学校

🎵 プロローグ・PLEYELのピアノについて

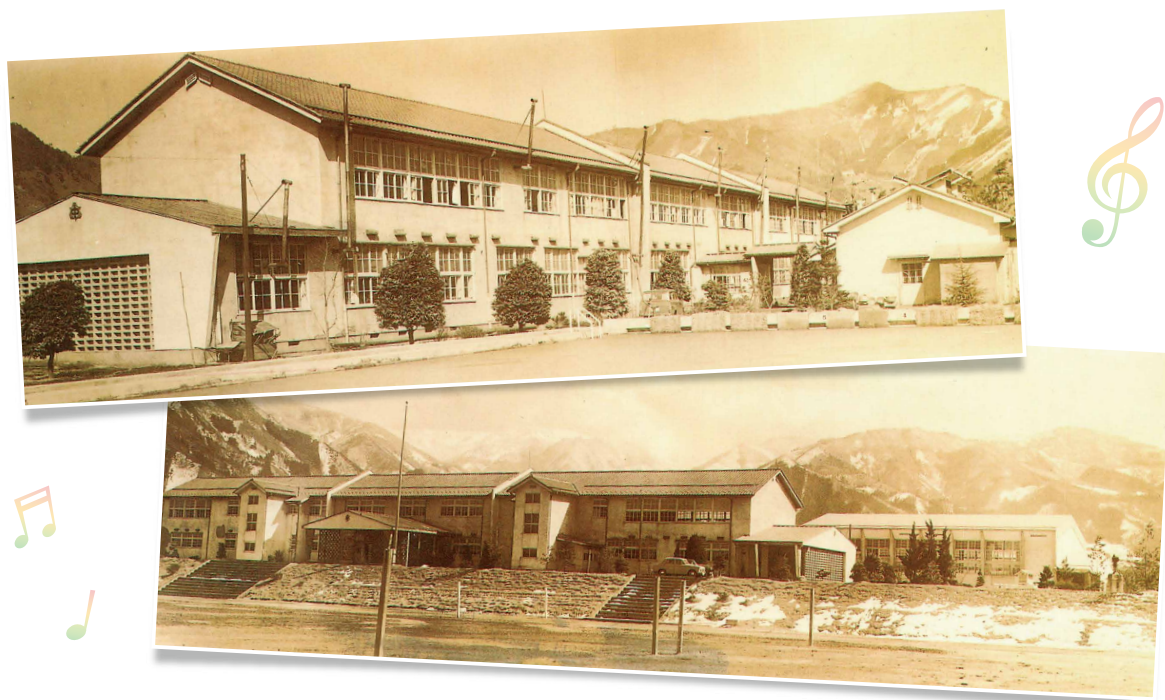
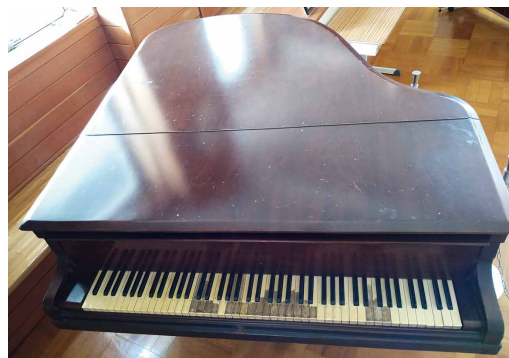
2022年2月の校長講話をきっかけに、私たちは東中学校に貴重なピアノがあることを知りました。そのピアノは、校舎の片隅にひっそりと孤独にたたずみ、誰にも触れられることがなかったピアノです。

1958年、東中学校開校に合わせて、地域出身の実業家である「山岸右京」さんがピアノを寄贈しました。フランスのPLEYEL社で製造されたこのピアノは、大変高価なピアノで、かつてフレデリック・ショパンが好んで使っていたとされる老舗名門ブランドです。生徒の明るく健やかな成長を願って寄贈されたということです。

校長講話では、校長先生から次のような問いかけがありました。「私たちは、『PLEYELのピアノ』を、未来に向けてどう引き継いでいけば良いのだろうか？」この答えに正解はありませんが、多くの生徒から「ピアノの音色をもう一度聴きたい。」「修理できるのならしたい。」という声があがりました。

2022年4月、新学期が始まり、総合的な学習の時間を使って「PLEYELのピアノ」に新たな命を吹き込むための活動が始まりました。活動が進むにつれて、全校生徒の中から多くの意見が出てきて活動はさらに発展していきました。

このパンフレットは、PLEYELに関わる歴史と命を吹き込むための活動の記録であり、この活動に関わる生徒・先生・地域の人々の想いの記録です。



山岸右京さん

山岸右京さんは、1887年(明治20年)に仁礼村・中村で生まれました。小学校卒業後、長野の菓子店に奉公し、その4年後、長野に菓子店を開業しました。50歳で店を弟に譲り、東京へ出て、土地家屋の売買等を経て、(株)西神田ビルの社長として貸事務所を運営しました。郷土愛に燃え、子弟の教育に心を寄せていた山岸右京さんは、東中学校や地域に数多くの施設設備を寄贈し、郷土の教育振興に貢献しました。旧東村は、昭和48年にその功績を称え、名誉村民の称号を贈りました。



東中学校に寄贈したもの

- ・昭和33年 PLEYEL社のピアノ
- ・昭和35年 音楽堂
- ・昭和36年 二宮尊徳銅像 バックネット
- ・昭和37年 KAWAIグランドピアノ
- ・昭和40年 プラスバンドー揃
- ・昭和43年 YAMAHAアップライトピアノ、プラスバンド 5点



フレデリック・ショパン

ショパンは、ポーランド出身で前期ロマン派音楽を代表する作曲家です。1810年に生まれ、1849年に39歳の若さで肺結核によって亡くなるまで、数多くの曲を世に生み出しました。フランスのパリで活躍し、ピアニスト、作曲家としても有名な人でした。今もなお「ピアノの詩人」として世界中で愛されています。

ショパンが作った有名な曲には、「子犬のワルツ」「別れの曲」「雨だれの前奏曲」「英雄ポロネーズ」などがあります。



東中学校にある「PLEYEL社のピアノ」

PLEYEL社は、オーストリア出身でフランスで活躍し、ハイドンに師事した作曲家イグナース・ジョセフ・ブレイエル(1757-1831)が設立したピアノ製作会社で、PLEYEL社のピアノは、軽妙で歌うような自然の音色を特徴とします。

東中学校のピアノは、製造番号から1920年代に製造されたことが分かっていましたが、パリに本拠地をおく音楽博物館のピアノ台帳を調べた結果、「1924年」に製造された「3bis(トワロビス)」というモデルで、ローズウッド材で造られたグランドピアノだということがわかりました。また同年2月29日に「東京のNAGAI」という人が7700フランで購入したことも明らかになりました。



各グループの活動



分解・清掃

PLEVELのピアノを修理する前に一度分解し、鍵盤を掃除しました。



演奏会・クイズ

演奏会の企画・準備・運営を行いました。PLEVELのクイズを作りました。



動画撮影

PLEVELの情報を色々な人に広めるために動画を作りました。



リメイク

いらない布を回収し、ランチョンマット、コースター、巾着を作って販売しました。

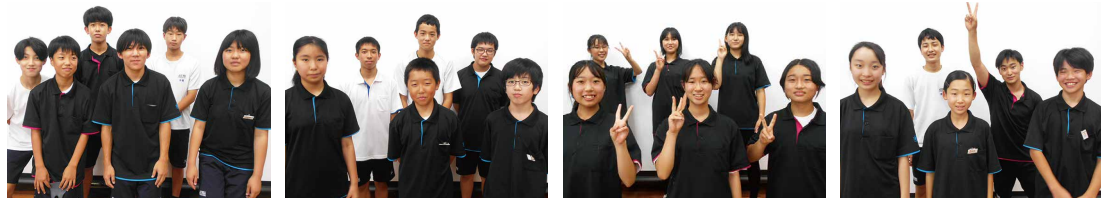


CM作り

地域の人に向けてCMを作り、ケーブルテレビで放送しました。

企業訪問・募金

ピアノの修理費用に掛かる寄付をお願いするために企業訪問をしました。



チラシ作成

地域、企業の方に配布するチラシを作りました。



渉外

報道関係へのプレスリリース作成と、ピアノ台帳にあるフランス語の解読をしました。



農業

修理資金を集めるために、花や野菜を育て、販売しました。



BGM

PLEVELのピアノで演奏した曲で放送用のBGMを作りました。



パンフレット

PLEVELのピアノに関する活動の記録をパンフレットにまとめました。

命を吹き込む



丁寧に運びます



直す前のピアノで演奏



企業の方から学びました



暑い中お疲れ様



丁寧に汚れをとりました

🎵 演奏会について

総合的な学習の時間のテーマ「PLEYELのピアノに命を吹き込む」を考えていく中で、ピアノを修理するだけでなく、その音色を大勢の人に聴いてもらうことがよいという意見が多く出ました。

PLEYELのピアノは、ショパンが愛用していたことで有名です。そのことからショパンに縁のある方で、長野市出身の山本貴志さんにぜひ来てもらおうと考えました。その結果、「第45回東祭」で次のような演奏会が実現しました。



🎵 プロフィール 🎵

長野市出身のピアニスト。
5年に一度、ポーランドのフルシャワで開催される「ショパン国際ピアノコンクール」は、音楽コンクールの最高峰であり若手ピアニストの登竜門とされます。
山本貴志さんは、2005年第15回大会で「世界第4位」となりました。

出演者
山本貴志さん
<http://takashi-yamamoto.com/top.html>

期 日
10月2日(日)

内 容
生徒からのインタビューを交えながら、山本貴志さんにピアノ演奏していただく予定です。

🎵 校長先生、編集者インタビュー

関東一円に甚大な被害をもたらした関東大震災から半年後の1924(大正14)年2月29日、フランスのPLEYEL社で製造されたグランドピアノ「3bis(トロワビス)」は、購入者である「東京のNAGAÏ」のもとに向かって海を渡りました。日本に届けられたPLEYELのピアノは、戦火(とりわけ東京大空襲)をくぐり抜け、1958(昭和33)年3月、山岸右京氏により東中学校開校(同年5月)直前の南部中学校に寄贈されました。今では、象牙の白鍵がいくつも剥がれ、その他のパーツも破損したPLEYELのピアノですが、65年間東中生を見守り続けてきた、間もなく100歳を迎えるビンテージピアノ～東中・地域の宝～です。

今年度の4月から始まった全校総合「PLEYELにいのちを吹き込む」に取り組む全校生徒の内面には、予想を遙かに超える熱い思いが漲っていました。「いのちを吹き込むとは?」の問いの正解は1人ひとり異なりますが、「イベント企画」「資金集め」「情報発信」の3グループに分かれ、さらに細分化されたチームごとの活動を進める中で、「古いピアノ」が「私たちのPLEYEL」に、そして「私のPLEYEL」へと変容してきているように感じています。私たち教職員も、生徒の皆さんとともにワクワクしながら伴走してきました。「やってみたくて1人ではできないこと」「仲間はあるけれど、自分たちの力だけではのりこえられないこと」は世の中にたくさんあります。学校という狭い枠を飛び出して社会と繋がり、校内外の人々の手を借りながら実現に向けて歩む皆さんの学びは、伴走する私たちにとっても、得がたい貴重な学びです。

「新たないのちが吹き込まれたPLEYELのピアノ」が、その歴史とともに引き継がれ、美しい音色を響かせ続けることを願っています。全校生徒の真摯な学びを讃えつつ、関わっていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

東中学校長 島田浩幸

最初はこんなに大変な活動とは思っていませんでした。協力をしながら出来たので良かったです。このパンフレットを読んでプレイエルのピアノに興味をもってくれる人がいたらいいと思います。

毎日期限との戦いで大変な部分が多かったです。でも、少人数で協力しながら完成することができて本当にうれしい気持ちでいっぱいです。たくさんの人に手に取ってもらい、プレイエルを知ってもらいたいです。

手に取る人が見たいと思ってもらえるパンフレットをどうやって作るのかを考えるのが難しかったけど、みんなでアイデアを出し合って出来たので良かったです。自分たちが作ったパンフレットで色々な人にプレイエルについて知ってもらいたいです。

思っていたパンフレット作りとは違って大変だったけど、皆で協力して出来たので良かったです。これをきっかけに、プレイエルのピアノだけでなく、いろんな会社のピアノにも興味をもってもらえたら嬉しいです。

パンフレット活動を始めたときはこんなに大変だとは思ってなかったけど、みんなと協力してパンフレットを作れて良かったです。

始めたときは、一から自分たちでパンフレットを作るなんて想像もできなかったけど、できていくうちに楽しくなっていて、自分たちが作ったパンフレットをたくさんの人たちに手に取ってほしいという思いが強くなっていきました。

パンフレットを作ることは初めての経験でした。上手くいか、ちゃんと伝わるか、心配だったけど、このパンフレットを通して地域の方たちや、学校外の方たちにも東中学校のプレイエルのピアノを知ってもらえたらいいと思います。

このパンフレットは、パンフレットの係の人たちが、協力して作り上げたものなので様々な人たちに興味を持ってもらいたい。